nac today

イエスが賜うところでは、皆が満たされる（2026 年 11 月 11 日）

パン五つと魚二匹…。イエス様はパンを取り、感謝を献げ、分け与えて、ごく僅かから大いなる業を成されました。神様はすべての人が満たされ、だれ一人として失われないことを望んでおられます。

2026 年 10 月 4 日（日）、ドイツのドルステンで行われた感謝祭礼拝において、ヘルゲ・ムチュラー主使徒は、ヨハネによる福音書 6 章 11 節から 12 節を引用しました。「そこで、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。人々が十分食べたとき、イエスは弟子たちに、『少しも無駄にならないように、余ったパン切れを集めなさい』と言われた。」〔以下、主使徒による説教の要約〕

春、過越祭の少し前、イエス様は弟子たちと一緒にガリラヤの海に近い山へと向かわれました。たくさんの群衆がイエス様について行きました。イエス様はこの多くの人を見て、どうすれば全員を食べさせるのに十分なパンを手に入るだろうかと思案されました。フィリポは計算を始め、200 デナリ分〔約 200 万円相当〕のパンがあっても到底足りないと思いました。するとアンデレが進み出て、大麦のパン五つと魚二匹を持っている少年がいることをイエス様に告げました。しかし、これほど多くの人々に対して、パン五つと魚二匹が何になるというのか――そう思うのはごく普通のことです。私たちは計算し始め「自分の持っているものでは不十分だ」と考えます。自分の信仰、力量、資金、計画、自分の限られた能力を、そう判断してしまうのです。

しかし、イエス様はこうした懸念に構うことなく、人々に座るようお命じになりました。「そこで、イエスはパンを取り」と聖書に書かれています。イエス様は最初にパン五つと魚二匹というごく僅か



なものを取り、これらを真剣に受け止め、一つひとつが貢献できるあらゆることを活用して働かれました。イエス様は、皆さんのごく小さな信仰――もしかしたらからし種より小さいかもしれません――をもって働かれます。なぜなら、イエス様はその小さな信仰さえも有効に用いることができるからです。小さな信仰を用いて、ご自身の御業をお立てになるのです。

癒しは感謝から始まる

豊かさが具体的になる前から、イエス様は感謝を献げられました。具体化する前に感謝するというこの根本的な原則を、イエス様はしばしば適用されました。感謝されたのは、万物を与えてくださる方をご存じだったからです。創造主をご存じだったからです。父なる神、御子なる神、聖霊なる神――この神の三位格は、それぞれ愛において固く結び合わされているため、唯一の神を構成しています。完全なる交わりです。この完全と満ちあふれる豊かさから、神様はご自身に似たものとしてこの世と人類を創造されました。

人々は罪に堕ちたことにより、人類は「与え主」

を信じず、与えられていなかったものを手に取り、感謝をやめてしまいました。こうして、関係がことごとく壊れてしまったのです。こんにちに至るまで、愛と交わりと信頼は、恐怖、競争、責め合いに取って代わられてしまいました。それでもなお、神様は与え続けておられます。毎年、種蒔きと収穫があります。そしてイエス様は、裏切られたその夜においてさえ感謝を献げられました。そうです。「主イエス・キリストよ。たとえ夜であっても、たとえ私の置かれた状況が困難であっても、私はあなたに、神様に感謝を献げます。」なぜなら、癒しは感謝から始まるからです。

神は豊かにお与えになる

イエス様はパンを取り、感謝を献げ、そこに座っている人々にパンを分け与えられました。皆が望むだけずっとお与えになりました。神様は豊かに与えてくださいます。一粒の麦が地に落ちて穂が育つ時、茎一本につき 40 から 50 粒ほどの麦を生み出します。実際、神様はすべての人が食べるのに十分な糧が確保できることを望んでおられます。しかし、不正や搾取がそれを阻(はば)んでいます。イエス様をお手本として、私自身も、自分なりの小さな方法で、持っているものを分け与えたいと思います。

肉体的な飢えもさることながら、平和と愛を求める魂の飢えも存在します。ここでイエス様は「私が命のパンである。私のもとに来る者は決して飢えることがない」と言っておられます。御言葉と祈り、聖別された聖餐、聖なる交わりを通して、ご自身を私たちに与えてくださいます。こんにちに至るまで常に与えてくださいます。その愛はすべての人にとって十分なものです。私もまた、平和をもたらす者となりたいと思います。

投げ捨てるのではなく、集める

山にいた人々が満腹になると、イエス様は弟子たちに余ったパンくずを集めるよう命じられました。これは無意味なことではありませんでした。むしろイエス・キリストは、残ったパンを細心の注意を払って扱われたのです。「イエス・キリストよ、私は投げ捨てるのではなく、あなたが集めるのをお手伝いしたいと思います。」神様はご自身の被造物を何一つ見捨てておられません。神様にとって無駄なものは何一つありません。イエス様は余りものや、傷ついた人々を集められます。イエス様と共にあるならば、何一つ失われることはありません。

イエス様は再びおいでになります。神様が豊かであふれるほど与えてくださるのを、そして私たちの魂が満たされるのを目にすることは、なんと素晴らしいでしょうか。すべての時が終わり、新天新地が到来し、ついに飢えはなくなります。なぜなら、至るところに平和があり、完全な愛がすべての中に満ちるからです。

ナックトゥデイ / 新使徒教会国際本部発行 / 原著　Sophie Berg / 写真　新使徒教会西ドイツ教区
日本語訳発行　〒 206-0014 東京都多摩市乞田 1320 日本新使徒教会 / (042)374-0070